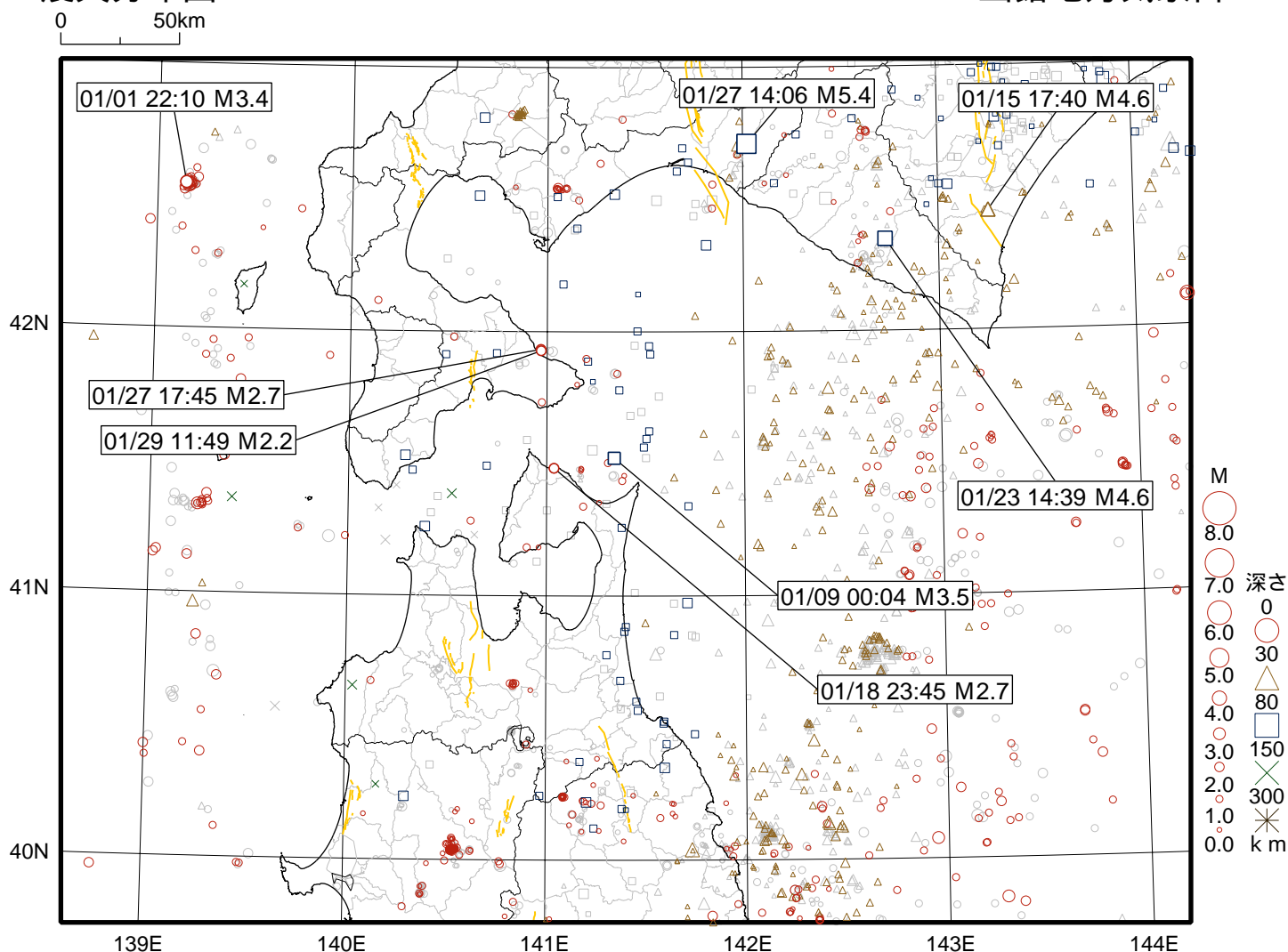


渡島・檜山地方の地震活動図

2021年1月1日～2021年1月31日

震央分布図

函館地方気象台



地震概況（2021年1月）

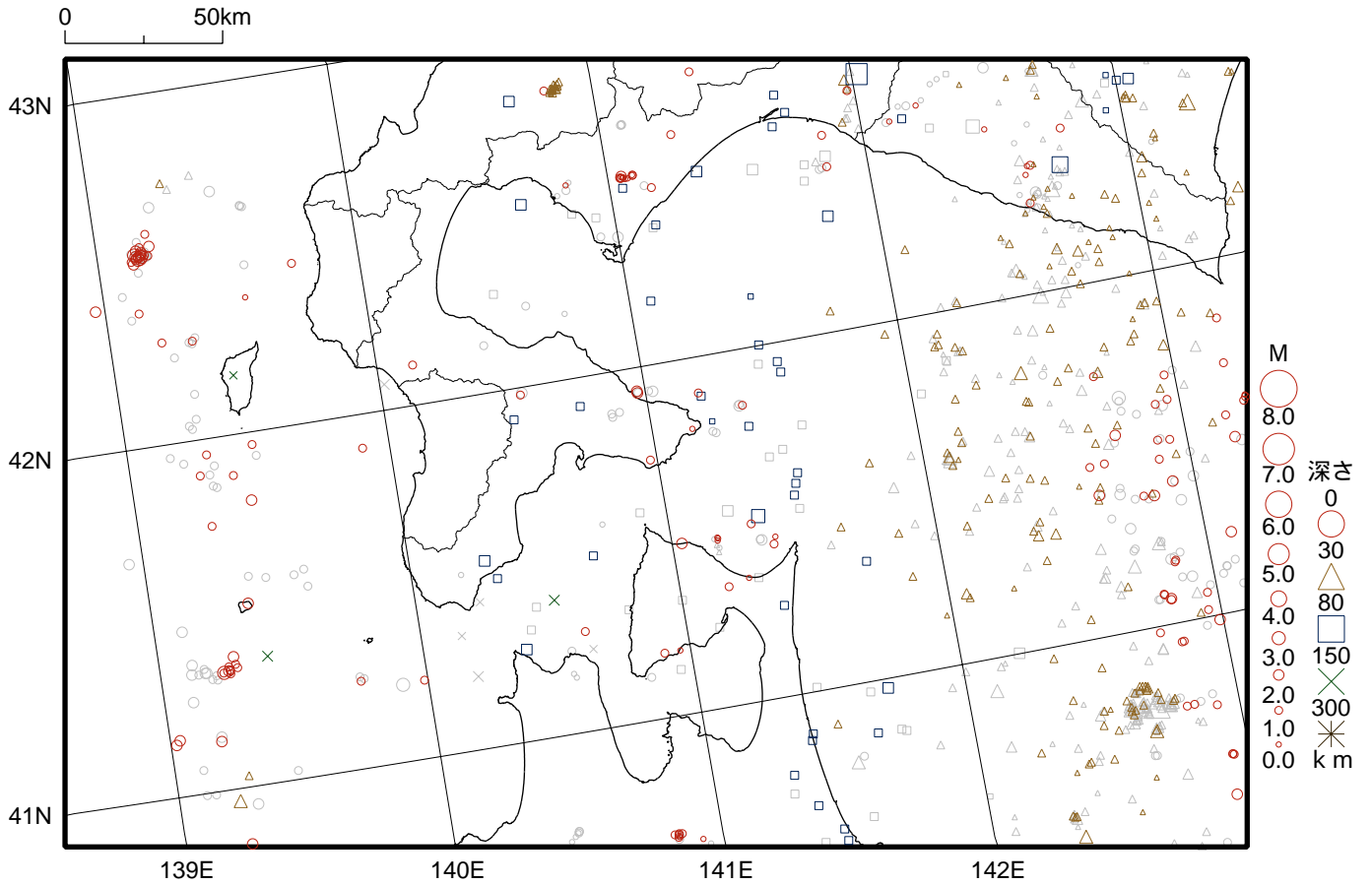
この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は9回（12月は7回）でした（詳細は「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

27日14時06分、胆振地方中東部の地震（M5.4、深さ128km）により、函館市新浜町で震度3を観測したほか、函館市、鹿部町、長万部、七飯町、森町、江差町で震度2～1を観測しました。

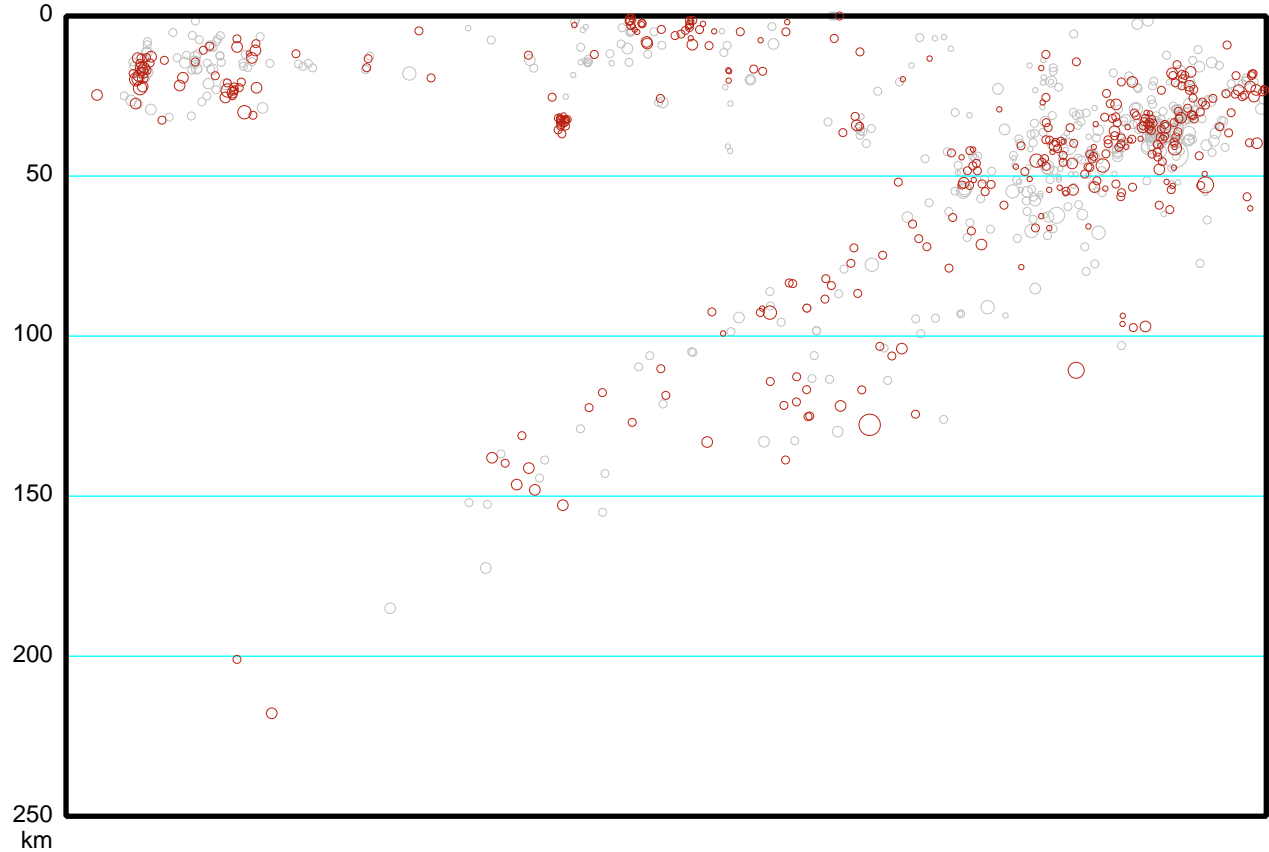
27日17時45分、内浦湾の地震（M2.7、深さ8km）により、函館市川汲町で震度3、函館市尾札部町で震度1を観測しました。その後、この地震の震源付近では、29日11時49分に、函館市川汲町で震度2を観測した地震（M2.2、深さ9km）がありました。

2021年1月1日 ~ 2021年1月31日

震央分布図



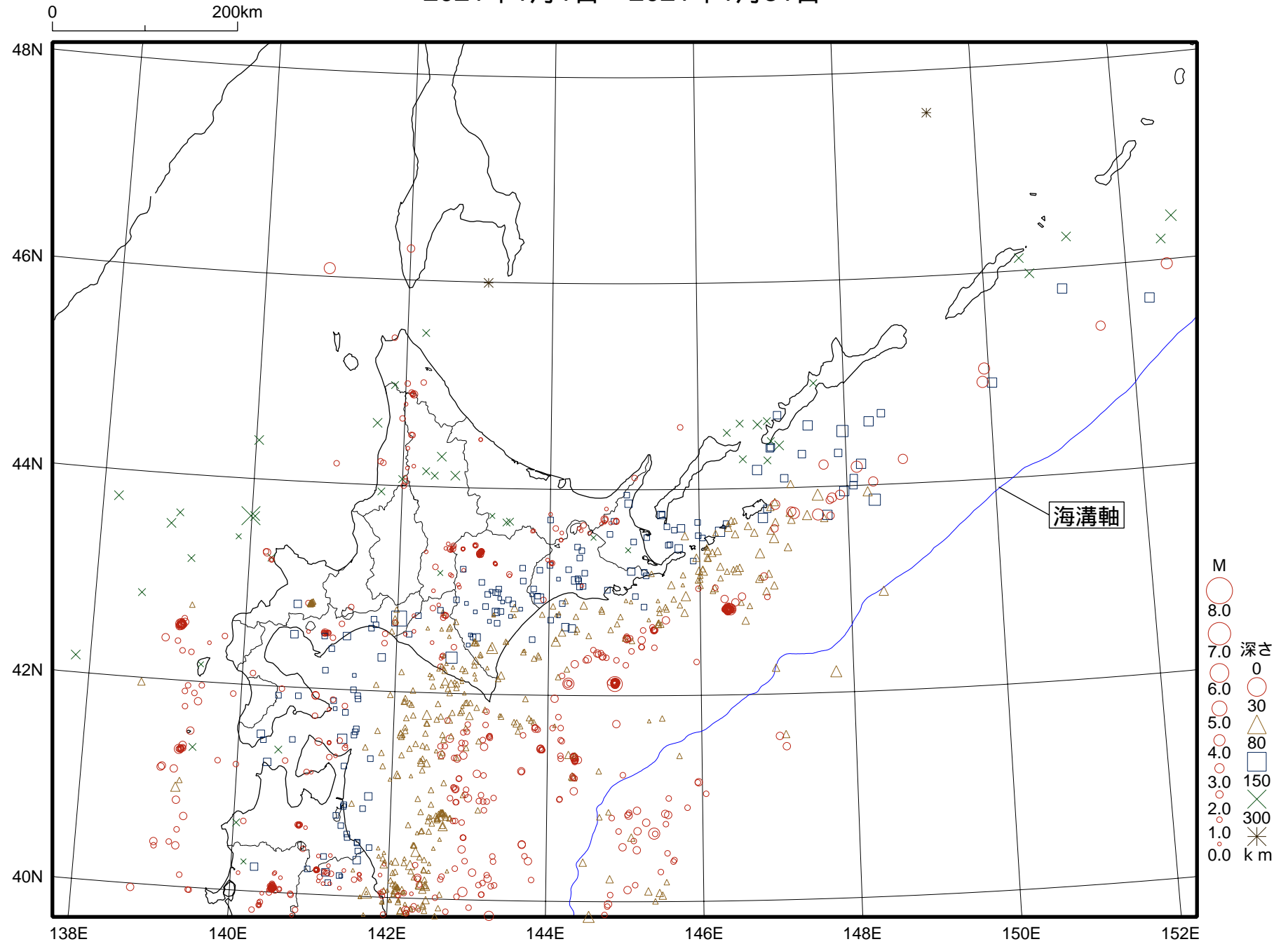
断面図



北海道の地震活動図

2021年1月1日 ~ 2021年1月31日

震央分布図



渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表(2021年1月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯(N)	東経(E)	深さ(km)	規模(M)
2021年 1月 1日 渡島地方 檜山地方	22時10分 震度1 震度1	北海道南西沖 八雲町熊石雲石町*(05) せたな町瀬棚区北島歌*(05)	42°32.8 N	139°08.6 E	20 km	M3.4
2021年 1月 9日 渡島地方	00時04分 震度1	津軽海峡 函館市泊町*(12)	41°31.3 N	141°20.4 E	93 km	M3.5
2021年 1月12日 渡島地方	11時39分 震度1	北海道西方沖 八雲町熊石雲石町*(08) 函館市泊町*(08) 函館市新浜町*(09)	43°38.2 N	139°59.1 E	235 km	M6.0
2021年 1月15日 渡島地方	17時40分 震度1	十勝地方南部 函館市泊町*(05) 函館市新浜町*(09)	42°27.0 N	143°15.3 E	53 km	M4.6
2021年 1月18日 渡島地方	23時45分 震度2	津軽海峡 函館市泊町*(16)	41°29.0 N	141°02.2 E	9 km	M2.7
2021年 1月23日 渡島地方	14時39分 震度2 震度1	日高地方中部 函館市新浜町*(22) 函館市尾札部町(08) 函館市泊町*(12) 函館市川汲町*(09) 鹿部町宮浜*(09)	42°20.8 N	142°43.6 E	111 km	M4.6
2021年 1月27日 渡島地方 檜山地方	14時06分 震度3 震度2 震度1 震度1	胆振地方中東部 函館市新浜町*(28) 函館市泊町*(19) 函館市川汲町*(17) 鹿部町宮浜*(17) 長万部町平里*(11) 函館市尾札部町(13) 函館市美原(09) 函館市日ノ浜町*(14) 七飯町桜町(12) 七飯町本町*(13) 渡島森町御幸町(12) 渡島森町上台町*(12) 渡島森町砂原*(13) 檜山江差町姥神(08)	42°42.6 N	142°01.2 E	128 km	M5.4
2021年 1月27日 渡島地方	17時45分 震度3 震度1	内浦湾 函館市川汲町*(28) 函館市尾札部町(11)	41°55.9 N	140°58.0 E	8 km	M2.7
2021年 1月29日 渡島地方	11時49分 震度2	内浦湾 函館市川汲町*(19)	41°55.6 N	140°58.1 E	9 km	M2.2

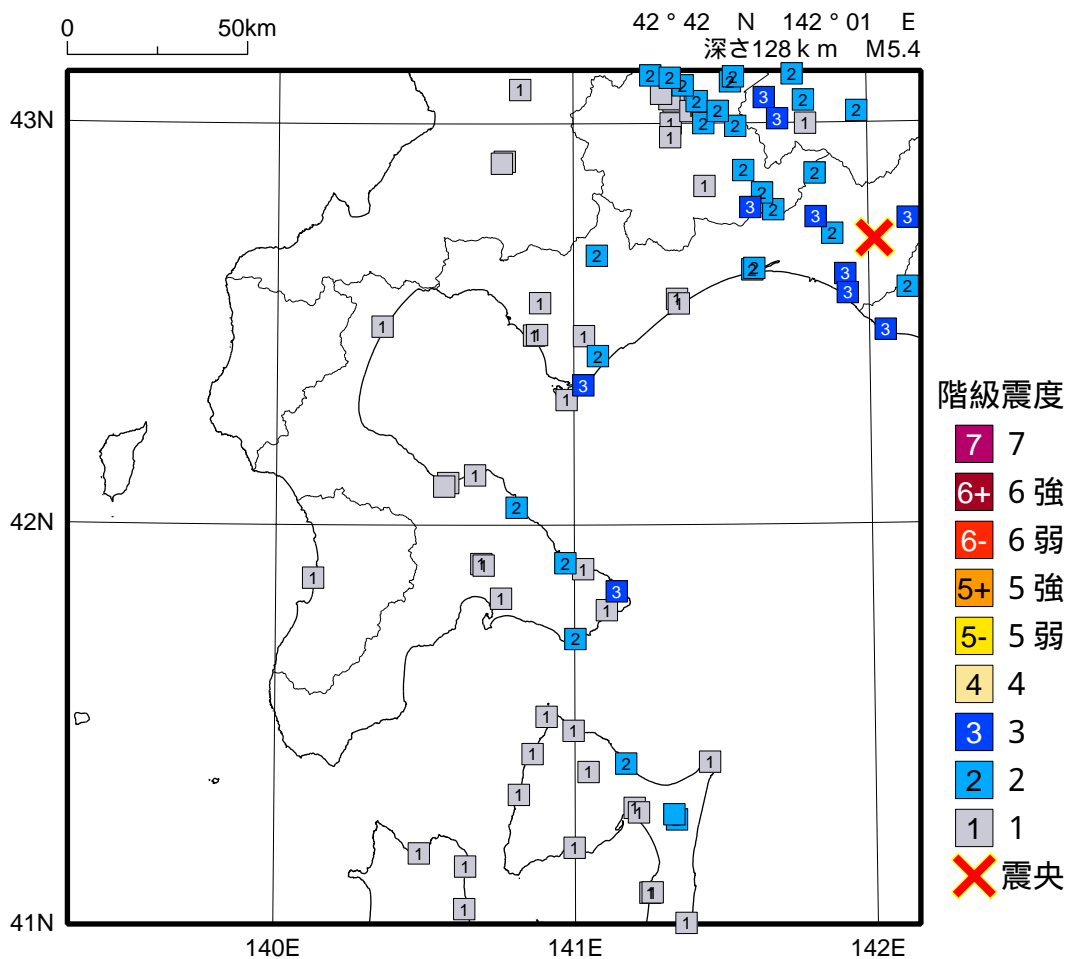
*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

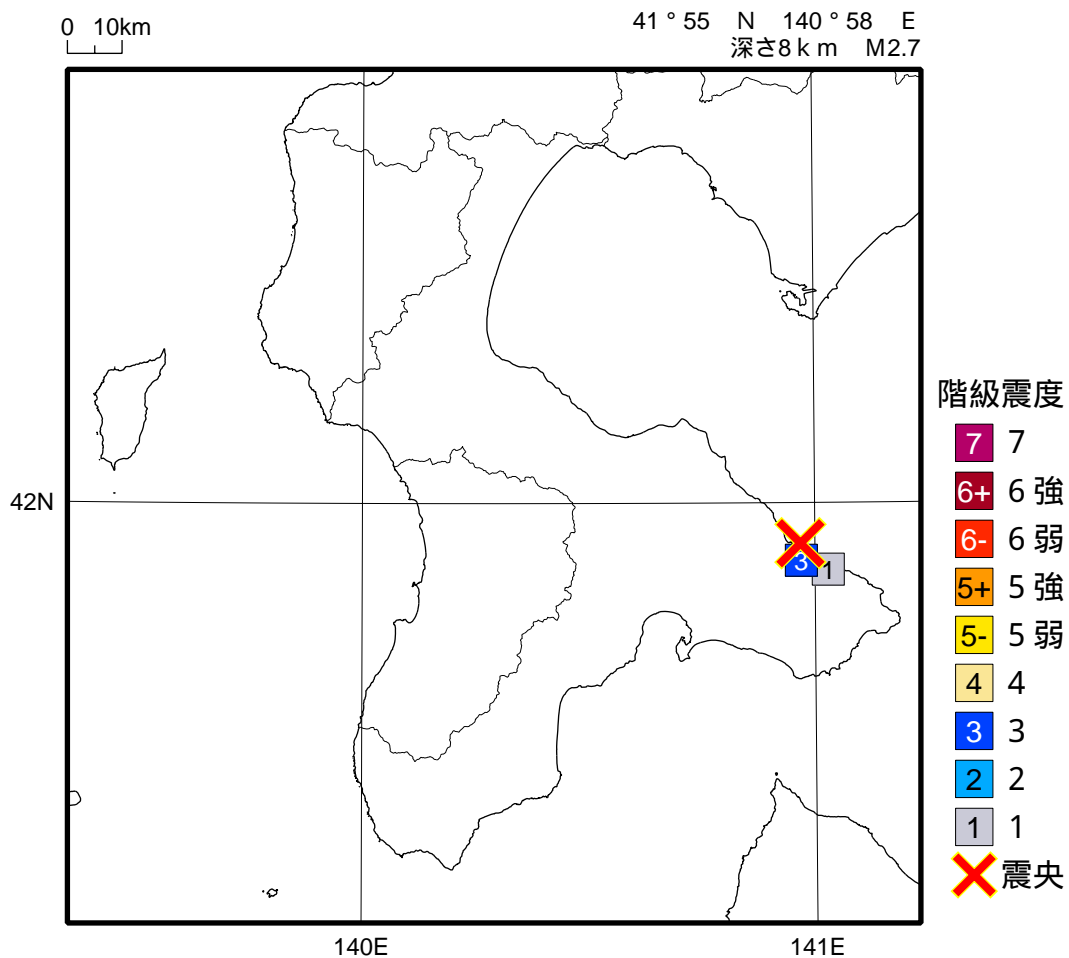
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

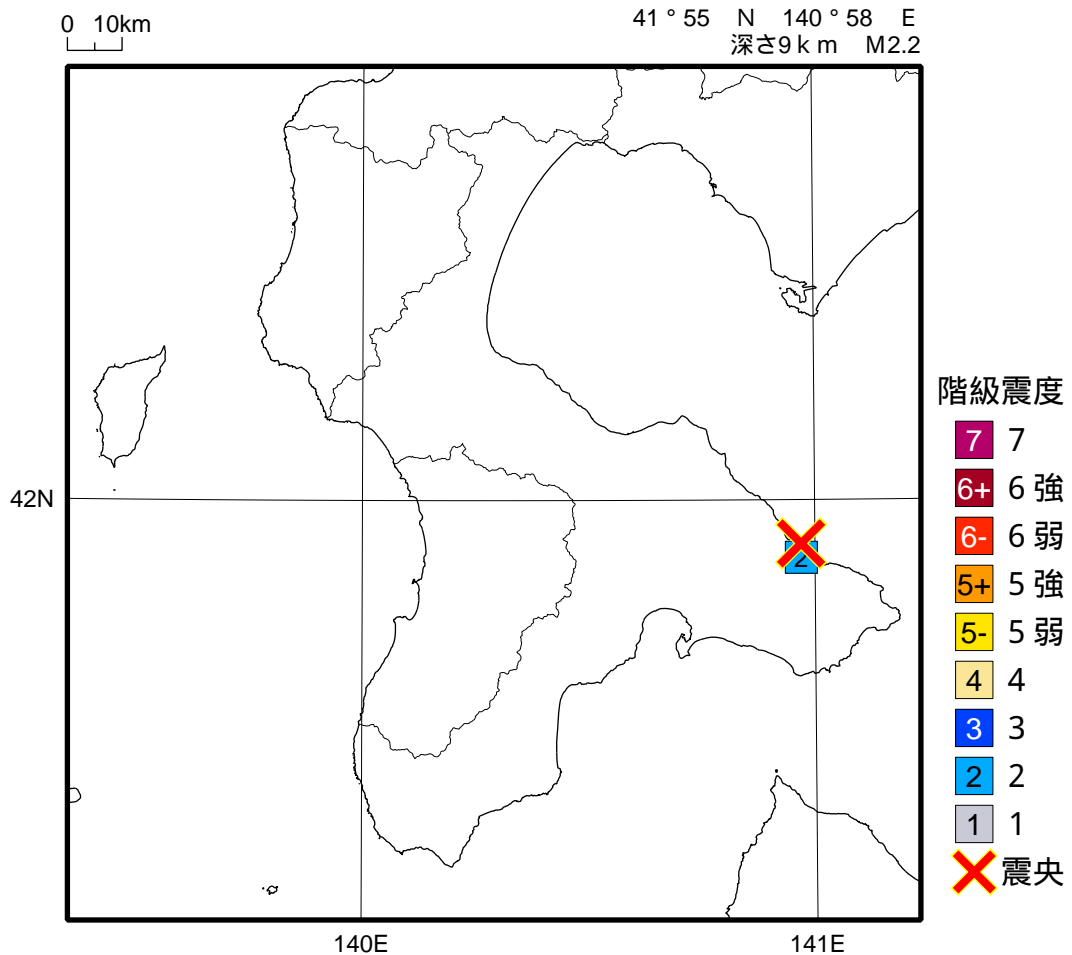
2021年 1月27日14時06分 胆振地方中東部の地震の震度分布図



2021年 1月27日17時45分 内浦湾の地震の震度分布図



2021年 1月29日11時49分 内浦湾の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 2020年4月18日から10月23日まで、及び2021年1月9日以降の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以外の期間と比較して微小な地震の震源決定数の変化が見られることがあります。
- ・ 2020年9月以降の地震は、それ以前と比較して、処理方法の違い等により、震源の見かけ上の位置や震源決定数に変化が見られることがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～冬の地震に備えて～

冬に大きな地震が発生した場合には、強い揺れや津波の被害に加え、雪や寒さが原因となる二次災害が起こることもあります。冬の地震に備えて、以下の点に注意しましょう。

1. 雪に対する備え

屋根に雪が多く積もっていると、地震の揺れによる家屋の倒壊や、屋根からの落雪の可能性がより大きくなります。屋根からの落雪は人を巻き込む危険性があるほか、避難路をふさぐ原因にもなりますので、十分に注意しましょう。

冬の避難では、路面の積雪や凍結、吹雪などにより、避難に時間がかかります。避難所や避難場所までの経路を事前に確認しておきましょう。



2. 火災に対する備え

暖房器具を使用する冬場の地震では、火災のリスクが高まります。転倒時に自動停止する機能があっても、停電からの復電とともに再起動したり、配線の損傷から漏電したりして出火する通電火災に注意が必要です。暖房器具のそばには可燃物を置かないようにし、避難の際はブレーカーを切るようにしましょう。



3. 寒さへの備え

地震によって電気やガスが止まり、暖房器具が使えなくなることが考えられますので、停電時でも使用できるようなポータブルの暖房器具を用意しておきましょう。また、防寒着や防寒靴、毛布、カイロなどを避難時にすぐ持ち出せるようにしておくことで安心です。

